

産業廃棄物処理計画実施状況報告書

令和5年6月6日

(宛先)前橋市長

提出者 〒371-0131
住 所 前橋市鳥取町123
氏 名 相模屋食料株式会社
代表取締役社長 鳥越 淳司
(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)
電話番号 027-269-2345

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第10項の規定に基づき、令和4年度の産業廃棄物処理計画の実施状況を報告します。

事業場の名称	相模屋食料株式会社 第一工場
事業場の所在地	前橋市鳥取町123
事業の種類	豆腐・油揚製造 (E09 食品製造業)
産業廃棄物処理計画における計画期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日

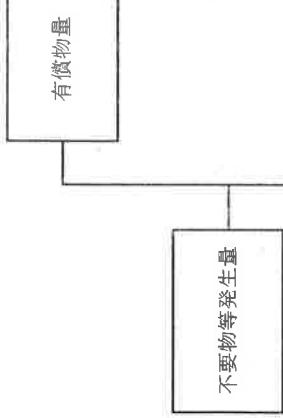
産業廃棄物処理計画における目標値

項目	目標値	項目	目標値
排出量	3050t	全処理委託量	1250t
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	優良認定処理業者への処理委託量	120t
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	再生利用業者への処理委託量	1130t
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	2200t	認定熱回収業者への処理委託量	t
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t
※事務処理欄			

(日本工業規格 A列4番)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類：動植物性残さ)



項目	実績値													
①排出量	1985t	t												
②自ら直接再生利用した量		t												
③自ら直接埋立処分又は海洋投入処分した量		t												
④自ら中間処理した量	1985t	t												
⑤自ら熱回収を行った量		t												
⑥自ら中間処理により減量した量		t												
⑦自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	1786.5t	t												
⑧全処理委託量	198.5t	t												
⑨優良認定処理業者への処理委託量		t												
⑩再生利用業者への処理委託量	198.5t	t												
⑪熱回収認定業者以外の熱回収を行いう業者への処理委託量	3050t	t												
														7301

(第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: 汚泥)



不要物等発生量

自ら直接
再生利用した量

自ら直接埋立処分又は
海洋投入処分した量

自ら中間処理した後
再生利用した量

自ら中間処理した後
再生利用した量

自ら中間処理した後
再生利用した量

自ら中間処理した後
再生利用した量

自ら中間処理した後
再生利用した量

排出量
746t

自ら中間処理
した量
746t

自ら中間処理
した後
の残さ量
746t

自ら中間処理した
後
の残さ量
746t

自ら中間処理した
後
の残さ量
746t

自ら中間処理した
後
の残さ量
746t

自ら中間処理した
後
の残さ量
746t

項目
①排出量
②+③自ら再生利用を行った量
③自ら熱回収を行った量
④自ら中間処理により減量した量
⑤+⑥自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量
⑩全処理委託量
⑪優良認定処理業者への処理委託量
⑫再生利用業者への処理委託量
3050t
⑬熱回収認定業者への処理委託量

②+③自ら再生利用を行った量
④自ら熱回収を行った量
⑤+⑥自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量
⑩全処理委託量
⑪優良認定処理業者への処理委託量
⑫再生利用業者への処理委託量
3050t
⑬熱回収認定業者への処理委託量

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類：廃プラスチック類)



不要物等発生量

自ら直接
再生利用した量

自ら中間処理した後
再生利用した量

⑧
t

排出量
89t

自ら中間処理
した量

自ら中間処理した後
再生利用した量

⑨
t

項目
①排出量
89t
実績値

自ら中間処理
した量

自ら中間処理した後
再生利用した量

⑩
t

②自ら再生利用を
行つた量
t

④のうち熱回収
を行つた量

自ら中間処理によ
り減量した量

⑪
t

③自ら熱回収を行つた量
t
⑤自ら中間処理により減
量した量
t
⑥自ら埋立処分又は
海洋投入処分を行つた量
t
⑦全処理委託量
89t
⑧優良認定業者への
処理委託量
89t
⑨再生利用業者への処理
委託量
t
305t
⑩熱回収認定業者以外の
熱回収を行つう業者への処
理委託量
t
89t
⑪
t

直接及び自ら
中間処理した後の
処理委託量
89t

⑫のうち熱回収認定
業者への処理委託量
t
⑬
t

⑭のうち熱回収認定
業者以外の
熱回収を行つう業者
への処理委託量
t
⑮
t

⑯のうち優良認定
業者への
処理委託量
89t
⑰
t
730t

(第2面)

備考

- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載した目標値を記入すること。
- 4 第2面には、前年度の産業廃棄物処理に関して、①～⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14)に掲げる量を記入すること。
 - (1) ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
 - (2) ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 - (3) ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分又は海洋投入処分した量
 - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量
 - (5) ⑤欄 (4)の量のうち、熱回収を行った量
 - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
 - (7) ⑦欄 (4)の量から(6)の量を差し引いた量
 - (8) ⑧欄 (6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
 - (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
 - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
 - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量
 - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
 - (13) 3050t 850t
第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量
 - (14) ⑭欄 (10)の量のうち
2200t
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入すること。
- 6 産業廃棄物の種類が2以上あるときは、産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により産業廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。
- 7 ※欄には、何も記入しないこと。